佐久の先人たち㊻

警廃事件で政治にめざめた浅間町長

阿部良太郎

（1894～1966年）

青年会長として岩村田警察署廃止反対運動の先頭に立ち、民衆の声を無視する官僚政治を正そうとした。太平洋戦争後は岩村田町・浅間町の町長として、農業用水の改良や上水道の敷設に力を入れ、町民の生活向上と民主化に尽した。

●青年会長として活躍

阿部良太郎は、一八九四（明治27）年、岩村田（現佐久市岩村田）本町で文具店を営む阿部亀助の長男として生まれた。幼いころから学業に秀れ、岩村田から遠い野沢中学校（現野沢北高校）へ下駄ばきで通い、勉学にはげんだ。当時の岩村田には農学校はあったが「中学校出の人材」は少なく、卒業すると、佐久銀行に勤めた。

大正期の岩村田は、明治初年から北佐久郡役所をはじめ、警察署・裁判所・税務署・営林署などがおかれ、北佐久郡の政治の中心地として人々が集まる町であった。いっぽう小諸は、大きな商店が並び製糸場が発展して、商工業の街としてにぎわいを増していた。

町の青年会に入って、読書をしたり人生の理想や町の発展について語り合っていた良太郎は、若者たちの信頼を集め、青年会長となり、さらに北佐久連合青年会長となって青年たちのリーダーとして活躍していた。

●岩村田警廃事件が起こる

一九二六（大正15）年六月三〇日の夜、岩村田の町中に大きな衝撃が走った。西本町に町民の寄付を加えて新築したばかりの警察署が廃止されるという電報が、長野新聞社から市川市助町長のもとに入ったからであった。町長はその夜「町の盛衰にかかる重大事件が勃発した」と町役場三役・議員・各団体長を緊急に召集して協議した。集った人々は「郡役所そして今度警察署が廃止されると、商店の収入や町の財政に大きな影響が出る」と東京と長野の関係官庁や政党へ「廃止反対の陳情」をすることを決めた。

この運動の先頭に立ったのが、良太郎を中心とする青年会の若者たちであった。彼らを蹶起させたのは、梅谷光貞県知事が「警察費の削減のために警察署を廃止する」と言いながら小諸分署を警察署に昇格したことであった。さらに六月の県議会では「ご希望は十分に研究して大事に」と見せかけの発言をしておきながら、七月一日に突如として廃止の発表をした。町民たちは県知事と竹下豊次警察部長の態度に、激しい怒りと憤りを持った。

七月三日と五日に岩村田小学校で開かれた町民大会では、県や中央から帰った陳情隊より、政治家や官僚たちの冷たい応対を聞き、町民はがっかりしていた。それを聞いた森泉三代太翁が「町難今にして至る。憂国の士よ起て。青年よ蹶起せよ」との激に、若者らは奮起した。七月一七日の夜に開かれる郡民大会に向けて、良太郎ら若者たちはハイヤー三台に分乗し、「暴政の敵梅谷知事を葬れ!!」とメガホンで叫びビラを配りながら村々を廻って、警察署復活の協力を人々に訴えた。

岩村田警察署へ向かう群衆
（中信毎日新聞社より）

●長野騒擾事件と良太郎

一九二六年七月一八日、長野市で岩村田・屋代・中野の三町が合同して、警察署廃止反対の県民大会を開くことになり、朝から「警察署廃止反対」の襷をかけた町民が西本町から駅へと集った。良太郎ら一班は午前五時五〇分発、二班は八時三〇分発の列車で長野に向かった。長野駅前に整列した一班は、三台のハイヤーを先頭に十数本の幟をなびかせ、ビラを配りながら中央通りを北へ向かって進んだ。

天も許さぬ梅谷の、この暴政を何と見る
吾等に正義の剣あり、彼官族をなぎ倒せ

二班は折から長野駅に着いた屋代隊と合流し、県町通りを北進し、知事官舎前で演説を始めた。その時群衆の一部が、警官の制止を破って邸内になだれ込み、梅谷知事に暴行を加え、ひたいに傷を負わせた。勢いあまった群衆は、さらに警察部長官舎を襲い、重傷を負わせて、県民大会場へ向かった。県民大会は午後一時から権堂の相生座で開かれたが、参加者が多くて入りきれないので、城山公園に移して行い、三町の警察署の復活を決議したが、それだけで終わらなかった。

大会が終わって中央通りを南下する群衆は、松橋久左衛門議員宅・小山邦太郎議員（小諸選出）宿泊先の犀北館・県会議事堂へと押しかけた。

郡民大会の決議書を、知事に渡す役目を帯びていた良太郎は、知事官舎へ向かった。知事は日赤長野病院へ入院したあとだったので、秘書に手渡して帰途についた。列車の中には私服の刑事がいて、群衆の話を聞いていた。

岩村田警察署の復活を喜ぶ町民

七月二五日の早朝、良太郎は「多数を指揮して率先騒擾の勢を助けた」との理由で逮捕され、長野拘置所に収容された。裁判では懲役五ヵ月を求刑されたが、無罪の判決を受けて、自由の身になった。この事件は良太郎の愛町精神と民権政治への強い志を育てた。岩村田警察署は復活し、知事と警察部長は罷免された。

●新しい民主政治をめざして

一九三一（昭和6）年から足掛け15年にわたる長い戦争は、軍部の横暴の下に人々は苦しい生活を強いられていた。戦いに敗れ、新しい民主主義の時代がくると、良太郎は長い間抱いていた新しい政治の実現に向かって町長に立候補した。

一九四七（昭和22）年、良太郎は岩村田町長に当選し、敗戦によって食糧不足に苦しむ町民の食生活の改善や学校の整備に力を注いだ。二期目になって町民の生活が安定してくると、民意に沿った町政を心がけ、道路の改良、地下水を利用した水道、総合病院の建設と、町民の生活安定に力を発揮した。

とくに力を入れたのは岩村田が古くから苦しんできた農業用水のコンクリートによる改修であった。千ヶ滝・常木・三河田用水は御代田・小沼など浅間山麓の村々と協議を重ね、井出一太郎農林大臣の助力もあって大きく進んだ。北佐久郡の水不足は解消し、田植えが早くなり、米の収穫は増えた。

一九五九年、良太郎は、町村合併後の浅間町長に当選すると

○町職員は誠実をもって事務に精励せよ
○町民に対して親切丁寧・真に公僕たれ

と、警廃事件以来持ち続けた愛町精神をもって、町民ひとりひとりの心を大切にする町政を行った。

良太郎は一九六六年、新しい佐久市の発展を祈りつつ、七一歳でこの世を去った。

（小林　收）

○参考文献
岩村田町報・浅間町報・中信毎日新聞・信濃毎日新聞
騒擾被告事件記録（佐久市志資料）
長野県野沢北高等学校記念誌編集委員会編
『高原の日は輝けり』同創立八〇周年記念事業実行委員会　一九八八

肖像写真提供　阿部　誠氏